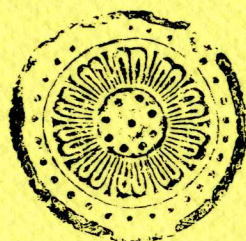


大分市歴史資料館年報

(平成14年度)



2003

は じ め に

平成14年度の年報をお届けします。

平成14年度からの“総合的な学習の時間”の導入を前に実施された“すこやか体験活動”を契機に、各種体験活動の充実をはかってきました。確実に利用者の増加につながりましたが、頭打ちの兆しも見えてきました。そのためにも、絶えず見直しと充実をはかることが必要であると感じています。

本年度秋季特別展は『大分と茶道 <宗麟と利休の流れ>』と題して行いました。成人女性に人気のある茶道をテーマとしたことと、大友氏関係遺品及び中世府内町出土茶道具を展示したことも評判を呼びました。

今後とも展示・普及活動をとおして、歴史を学ぶ場、そして歴史を体験する場として、より一層の充実をはかってゆきたいと思っておりますので、市民の皆様の暖かいご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

平成15年 3 月31日

大分市歴史資料館

館長 木村 幾多郎

目次

展 示	1
テーマ展示 特別展示	
特別展研究ノート	5
資料調査	15
資料収集	16
教育普及活動	21
平成14年度大分市歴史資料館研修報告	25
(大分市王子中学校教諭 光来出 修)	
図 書	27
資料館利用状況	34
管理及び運営	36
歴史資料館協議会 組織・事務分掌・職員・歳入歳出	
施設管理業務の内容	
施設の概要	38
条例・規則	40
日誌抄	46
利用案内	48

展 示

テーマ展示

本年度は以下の内容のテーマ展示を開催した。



第1回 変わりゆく景観 古絵図

会期 4月13日(土)～5月26日(日)

入館者数 3,075人

城絵図・村絵図・絵巻・地籍図などの古絵図類を展示し、戦国時代から昭和前半までの大分中心部の景観や風俗等の移り変わりを紹介。

主な展示品 府内古図、正保城絵図、「豊後府内城之絵図(模写)」、御城下絵図、日根野時代府内藩領図、日出・府内間山水図、千石橋・御舟奉行役所・春日浦御茶屋絵図(松栄神社蔵)、昭和13・14年頃「大分町図」、大正6年「大分市街新地図」、昭和9年「大分市鳥瞰図」ほか

第2回 源氏物語絵の魅力

会期 6月1日(土)～7月21日(日)

入館者数 3,212人

宇佐八幡宮旧蔵と伝えられる源氏物語屏風の断簡23面を一堂に展示。平安時代より日本人に

愛好された源氏絵の世界を紹介した。また、『源氏物語』をもとに書かれた大友義統筆の「十二月言葉手鑑」も併せて展示した。

主な展示品 帚木(巻2)、空蟬(巻3)、若紫(巻5)、末摘花(巻6)、花宴(巻8)、花散里(巻11)、須磨(巻12)、明石(巻13)、蓬生(巻15)、関屋(巻16)、松風(巻18)、少女(巻21)、篝火(巻27)、行幸(巻29)、鈴虫(巻38)、夕霧(巻39)、御法(巻40)、幻(巻41)、紅梅(巻43)、竹河(巻44)、椎本(巻46)、宿木(巻49)、蜻蛉(巻52)、大友義統筆「十二月言葉手鑑」ほか

第3回 昔のくらし展

会期 7月27日(土)～10月13日(日)

入館者数 5,208人

高度経済成長を遂げた昭和30～40年代を中心に、白黒テレビ・洗濯機などの各種家電製品や、子供たちが目を輝かせた駄菓子屋の品々など、今では見られなくなった道具や物を通して、当時の生活風景を紹介。また併せて、足踏みミシンや同オルガン、パッチン(メンコ)などの体験コーナーを設けた。

主な展示品 白黒テレビ、電気洗濯機(30年代前半)、電気釜(30年代前半)、電気魚焼器、ジャー、トランジスタラジオ、足踏みミシン、足踏みオルガン、たらい、ちゃぶ台、教科書(30年代)、記念硬貨、記念切手ほか

第4回 大分ゆかりの古文書

会期 12月7日(土)～3月30日(日)

入館者数 4,053人

義鑑・宗麟(義鎮)・義統の大友家の書状をはじめ、同家ゆかりの源頼朝書状、また江戸時代の豊後府内藩・臼杵藩関係の史料などを展示。大分の歴史の一コマを紹介した。

主な展示品 源頼朝書状、大友義鑑書状(深田文書)、大友宗麟書状(戸次文書)、大友義統書状(野上文書)、豊後侍着到覚、酒株根源記ほか

資料収集

資料収集委員会

1. 会議

開催日 平成15年3月15日

場所 大分市歴史資料館会議室

- 議題 (1) 委嘱状の交付
(2) 会長・副会長の選出
(3) 平成14年度購入予定資料の審議
(4) 平成14年度の資料収集

2. 委員名簿

氏名	役職	分野
加藤 知弘	大分大学名誉教授	日本海外交流史
後藤 宗俊	別府大学文学部教授	日本考古学
菊竹 淳一	九州大学名誉教授 九州産業大学芸術学部教授	日本美術史
豊田 寛三	大分大学長特別補佐/ 教育福祉科学部教授	日本近世史
段上 達雄	別府大学文学部教授	日本民俗学

寄贈品

- (1) 唐箕、カルチベーター（除草機） 2点
江良 六子 氏
- (2) 三彩貼花文五耳壺 1点
江崎 武 氏
- (3) 脇差（銘 則光） 1振
阿南 永人 氏
- (4) 一字一石 2,544点
帆足耕一郎 氏

寄託品

- (1) 杉原家文書 348件
森 寿男 氏

購入品

- (1) 大分県宇佐郡明治初期資料 107件
明治5年の「大区・小区制」の施行によって誕生した一地方行政区である小倉県第九大区第三小区に関わる行政資料群。同区は、当初旧島原藩領の豊前宇佐郡水崎村・東大堀村・青森村・荻宇田村・辻村・立石村・西木村・山村・両戎村・江熊村・西屋敷村・金丸村・出光村・岩崎

村の14ヶ村を管轄下に置いたが、その後、行政区の編成替えが行われ、和気村・橋津村・日足村の3ヶ村を加えて小倉県第八大区第六小区となっている。さらに小倉県廃止にともない明治9年4月福岡県に合併され、同9年8月大分県へ編入されている。本資料群では、県への上申書、通達書、公租、訴訟など多方面の内容が明治7年～同18年にわたって収められており、特に小倉県→福岡県→大分県と所管の変更をともなう同資料群は、明治初期の行政組織やその機能を理解することのできる好資料といえる。また、本資料群の中には、西南戦争に兵夫とし派遣された人々のことを記した「通行券控簿」や、内務省駅通寮の指示のもと、明治7年に設立し運送請負業務や郵便下請業務を国内に展開した内国通運会社「岩崎駅取次所」の関係史料も含まれており、当該期の郵便や物資の動きが分かる興味深い内容である。

- (2) 三彩貼花唐草文五耳壺 1点
(高さ29.5cm、口径11.2cm、最大幅25.5cm)
花や葉・蔓などの文様を貼り付け、緑・黄・紫の釉薬で彩られた五耳壺。明時代後期の中国華南地方で焼かれ、16世紀末頃日本国内に招来されたものといわれる。中世大友氏府内町跡をはじめ、大坂道修遺跡・奈良興福寺一乗院跡・東京汐留遺跡などから、同様の壺の破片が出土しており、特に府内町跡の事例ではその量の多さが指摘されている。本品は国内に伝世したもので、形式的には古いタイプの三彩貼花唐草文五耳壺とみられる。

- (3) 三彩鳥形水注（燭台） 1点
(高さ17.0cm、幅14.5cm)
16世紀末、日本に盛んに輸入された華南三彩陶器の一種で、鳥をかたどった水注（水さし）。上から水を注ぎ入れる部分に蠟燭を立てる金具を取り付け、本来の用途とは異なり、燭台とし

て利用されていたことが分かる。中世大友府内町跡からは華南三彩陶の水注で鶴形のものが出土しているが、本品は国内に伝来したもので、当時華南三彩が多様なかたちで利用されてきたことを示す好資料である。

- (4) 青磁酒海壺（水指） 1点
(高さ24.0cm、口径25.6cm、最大幅31.0cm)
明時代の中国の浙江省南部一帯（含 龍泉窯）で焼かれた青磁の広口壺。篋で花卉や唐草などの文様が全体に陽刻されている。この種の青磁は沖縄県各地から出土しており、その出土例は東南アジアまでも広がりをみせている。また、日本にも多く輸入されたとみられ、中世大友府内町跡はじめ日本各地の中世遺跡から確認されている。本品は国内において水指として伝来したもので、当時広く国内に受容された青磁を理解する上で貴重な遺品であり、また当時の交易ルートをうかがう上でも興味深い資料である。

- (5) 三彩鳥形水滴 1点
(高さ7.9cm、幅6.5cm)
華南三彩の鳥形水滴で、雌雄の鴨が並んだ姿をかたどったもの。中世大友府内町跡からも同様の鴨形水滴の破片が出土しており、その他、堺環濠都市遺跡・福井市一乗谷朝倉氏遺跡・島根県富田川遺跡などからの出土例も報告され、国内に広く受容されていたことが知られている。本品は府内出土の遺物の全容を知り、また比較・検討する上でも貴重である。

- (6) 阿蘭陀色絵細水指 1点
(高さ15.5cm、口径10.4cm)
淡黄色を呈する軟質な胎土を特徴とするオランダ陶器。通称「デルフト陶器」と呼ばれ、16世紀末から17世紀初頭にオランダの北ネーデルラント地方で製作されたものと考えられている。本資料は、特にアルバレロ形とされる筒形の容器で、水指として国内に伝世したものである。日本での出土例は、徳川秀忠墓・東京大学構内

遺跡（加賀藩前田家江戸上屋敷）・京都宮津城・大阪堺環濠都市遺跡・長崎出島および市内・大坂城城下町跡など、20点ほどが知られているが、中でも徳川秀忠墓からの出土品は完存品で、彼の没年（1632年）からその使用年代を推定することができ、また大阪堺環濠都市遺跡の資料は、1615年の大坂夏の陣前後に埋め戻された堀の埋土内から出土しており、年代が分かる最古の事例とされている。

この初期オランダ陶器は、スペイン・ポルトガルの旧教国がキリスト教禁教に伴い日本への影響力を失いつつある中、1602年の東インド会社設立を契機とするオランダのアジア進出によって招来されたものと考えられ、特に1609年にオランダ商館が設置された平戸、および同地に代わって1641年以降商館地とされた長崎出島を中心に流通したとみられる。

本資料は、こうした当時の社会情勢を反映し、また年代比定の可能な資料として重要であり、特に府内藩主竹中重隆が1629年から1633年の約4年間、外国貿易などを管理した長崎奉行の職にあったことから、今後府内城下町跡からも出土する可能性の高いものと判断される。

一方、このアルバレロ形の陶器をフランスのリヨン産のものとする見解もあり、これを日本へ持ち込んだのは初期のイエズス会の宣教師たちであったとも言われており、16世紀末段階の中世府内町跡から今後出土する可能性のある資料でもある。

- (7) 青磁稜花盤 1点
(高さ6.0cm、口径31.5cm)
明時代の青磁で、縁を花卉風にあしらった大皿。全体に花卉や唐草文様が篋で陰刻されている。本品も国内に伝世したもので、同様のものが中世大友府内町跡からも出土している。

- (8) 青磁雷文碗 1点
(高さ7.5cm、口径14.3cm)
明時代の青磁の茶碗。篋で雷文ならびに唐草

文様が陰刻されている。同様のものが中世大友府内町跡からも出土している。

(9) 喜楽館戦前ポスター 3枚
(縦147cm、横79cm)

大分館・有楽館（のちの日本館）とともに昭和前半の大分市の映画という大衆娯楽を担った映画館「喜楽館」の劇場用のポスター。昭和初年に西新町（現在の中央町3丁目7番地付近）に建てられ、昭和20年7月16日の大空襲で被災にあい、当時の関係資料もほとんど焼き尽くされたとみられていた。本資料はその数少ない資料の一つで、「異教徒」、「バード少将南極探検」などの洋画や松竹キネマ（同社は昭和12年に松竹株式会社に社名を変更）の作品が上映内容としてあることから、戦前に館内にはられていたポスターとみられる。

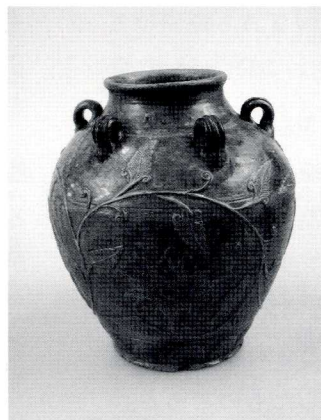
(10) 海東諸国紀（写本） 1冊
(縦27.5cm、横20.5cm)

朝鮮成宗2年（文明3・1471年）王命を受けて申叔舟が交隣外交の規範とするために編纂・出版したもので、本書はその江戸時代の写本。「海東諸国」とよばれた日本・琉球の国情や、同地域の朝鮮使節派遣者名、また彼等の朝鮮での接待規定などが記されており、その中には大友氏や「大友殿管下」とされた者の記述もあり、当該期大友氏の海外通交を知る上でも重要な資料である。特に巻首に収められた海東諸国総図・

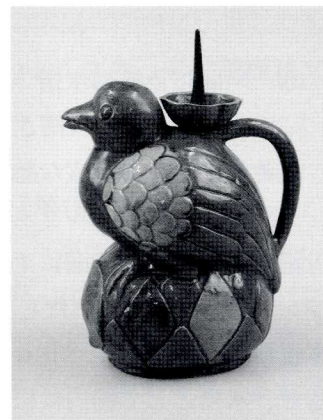
（購入品）



(1) 大分県宇佐郡明治初期資料



(2) 三彩貼花唐草文五耳壺



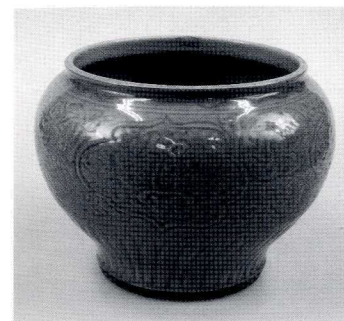
(3) 三彩鳥形水注（燭台）

(11) 尾崎行雄書簡 一幅
(縦147cm、横79cm)

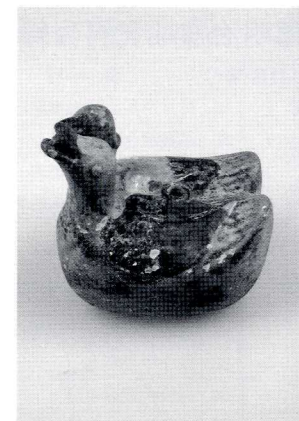
明治～昭和初期の政党政治家尾崎行雄（1858～1954年）が中津福澤会の第10回の追悼会（昭和25・1950年）に寄せたあいさつ原稿。本書簡には、当時彼は93歳の高齢で、病気で出席ができない代わりとして同会へ送ったメッセージの内容が記されている。師福澤諭吉が明治維新後の日本において教育・政治・経済・殖産・交通など多方面にわたって尽力し、成功を収めたこと。戦後の新しい日本においても、この諭吉の精神を受け継ぎ、世界的視野に立った「簡易共通の世界語」の必要性を説いており、晩年の彼の思想を知る上で興味深い資料でもある。

複製品製作

- | | | |
|---------------|-------|----|
| ①亀甲古墳出土三角縁神獸鏡 | 鋳造復元 | 1点 |
| ②尼ヶ城跡出土鏡片 | 鋳造復元 | 1点 |
| ③多武尾遺跡出土小銅鐸 | 鋳造復元 | 1点 |
| ④大分市内出土銅剣 | 鋳造復元 | 1点 |
| ⑤大分市内出土重狐文壺 | 土器パズル | 1点 |
| ⑥大分市内出土突帯文甕 | 土器パズル | 1点 |



(4) 青磁酒海壺（水指）



(5) 三彩鳥形水滴



(6) 阿蘭陀色絵細水指



(7) 青磁稜花盤



(8) 青磁雷文碗

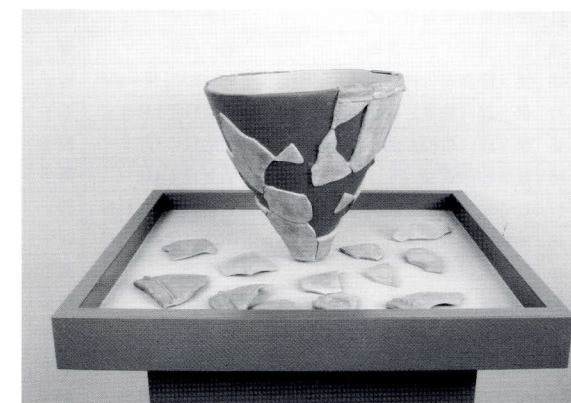


(9) 喜楽館戦前ポスター

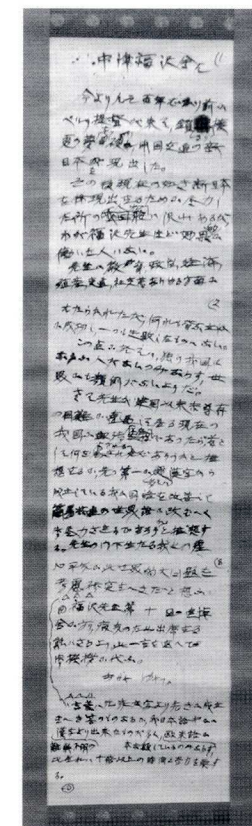
（複製品）



③ 多武尾遺跡出土小銅鐸 鋳造復元



⑥ 大分市内出土突帯文甕 土器パズル



(11) 尾崎行雄書簡



(10) 海東諸国紀

大分県宇佐郡明治初期資料目録

番号	資 料 名	年 代	形態	数量	番号	資 料 名	年 代	形態	数量
1	中津勸解願仕出	明治7年～18年	冊子	1	55	毎月戸長会議議案綴込	明治14年7月～15年	冊子	1
2	訴訟書綴込	明治8年～10年	冊子	1	56	議員組合人名録	明治16年	冊子	1
3	租税課御達書	明治8年	冊子	1	57	村会議員撰挙人名簿	年未詳	冊子	1
4	酒造桶寸尺取調帖	明治8年	冊子	1	58	村会議員被撰挙人名簿	年未詳	冊子	1
5	往復書綴込	明治8年	冊子	1	59	六小区費決算	明治16年	冊子	1
6	諸願同届	明治8年～9年	冊子	1	60	添申	明治16年	冊子	1
7	進達表	明治8年	冊子	1	61	御利解御願	明治16年10月13日	冊子	1
8	田畑収穫小作取調帳	明治8年5月	冊子	1	62	明治16年棉・大豆等作付概況表	明治16年11月9日	冊子	1
9	小区費会計録	明治8年分	冊子	1	63	県庁甲号布達	明治17年1月～12月	冊子	1
10	明治8年貢租金仕訳書	明治9年	冊子	1	64	村役所費遺払簿	明治17年7月1日～9月	冊子	1
11	旱田地価書上簿	明治9年	冊子	1	65	内務省指令辛第81号	明治26年3月31日	冊子	1
12	願同届綴込	丙子歳(明治9年)	冊子	1	66	白岩溜池新築費決算書・現金出奔之部	年未詳	冊子	1
13	官木払下地所相当代価書上	明治9年4月	冊子	1	67	民費不納之者人名附	年未詳	冊子	1
14	七年甲戌貢米上納仕訳書	年未詳	冊子	1	68	羅災府地租金御補助願	年未詳	冊子	1
15	旱田地価取調	年未詳	冊子	1	69	荒地所調書出簿	年未詳	冊子	1
16	丙子地券税仕訳書	年未詳	冊子	1	70	諸達綴込	明治15年～17年	冊子	1
17	旱田反別再帳簿	明治9年9月	冊子	1	71	甲第15号	明治17年11月27日	冊子	1
18	大分県御布告	明治9年9月～10年5月	冊子	1	72	諸物貨配達牒	明治17年4月ヨリ	冊子	1
19	旱損ニ付拝借金員書上簿	明治9年11月	冊子	1	73	公翰通送状并決算簿	明治17年9月24日ヨリ	冊子	1
20	旱損ニ付拝借金員書上	明治9年11月	冊子	1	74	諸達綴込	明治18年1月	冊子	1
21	諸鑑札並請取書受渡	明治9年～12年	冊子	1	75	現金筆紙墨通帳	明治18年9月ヨリ	冊子	1
22	僧尼定籍御届	明治9年11月・(同10年9月)	冊子	1	76	諸上納領収証綴込	明治21年	冊子	1
23	<取調上申書>	明治9年12月	冊子	1	77	諸物貨受取渡証 第3号	年未詳	冊子	1
24	旱損ニ付不足租拝借金書上簿・村落景況書上簿	明治9年12月	冊子	1	78	諸物貨受取渡証 第5号	年未詳	冊子	1
25	戸籍送入籍券綴込	明治10年～11年	冊子	1	79	諸物貨受取渡証 第2号	年未詳	冊子	1
26	コレラ病并非常届書纏メ	明治10年10月	冊子	1	80	諸物貨受取渡証 第5号	年未詳	冊子	1
27	土木出来形精算簿	明治10年11月分	冊子	1	81	大参宮会員募集手続書	明治22年11月	冊子	1
28	土木出来形精算	明治10年1月～6月	冊子	1	82	広第1125号・同153号・同146号・副申書	明治27年	冊子	1
29	村費書出簿	明治10年1月分	冊子	1	83	<祈禱札の上程の件>	明治27年	冊子	1
30	第2課(勸業)御布達	明治10年1月ヨリ	冊子	1	84	北馬城村岩崎社神明帳誤謬訂正願	明治28年9月17日	冊子	1
31	第4課(警保)御布達	明治10年1月ヨリ	冊子	1	85	例規	大正15年ほか	冊子	1
32	第5課(学務)御布達	明治10年1月ヨリ	冊子	1	86	大分県神職総会協議事項	昭和9年3月29日	冊子	1
33	第6課(出納)御布達	明治10年1月ヨリ	冊子	1	87	社司社掌会議事項	昭和10年3月29日	冊子	1
34	第6課(出達)御布告達類綴込	明治10年1月ヨリ	冊子	1	88	大分県神職総会協議事項	昭和10年3月29日	冊子	1
35	進達綴込	明治10年1月ヨリ	冊子	1	89	三申書ヲ以上奉願候	年未詳	一紙	1
36	村費書出簿	明治10年2月分	冊子	1	90	祝詞	年未詳	冊子	1
37	地租総額	明治10年4月	冊子	1	91	記	年未詳	冊子	1
38	土木出来形精算簿	明治10年7月～9月	冊子	1	92	皇国同一奉賀学校新築祝詞	年未詳	冊子	1
39	通行券控簿	明治10年7月ヨリ	冊子	1	93	<豊前国宇佐郡岩崎村若宮八幡宮等の社願旧記>	年未詳	冊子	1
40	荒地所調帳	明治10年9月	冊子	1	94	大祓	年未詳	冊子	1
41	国県税後半期取立帳	明治11年	冊子	1	95	神恩国恩下調書	年未詳	冊子	1
42	諸官省御布告布達綴込	明治11年	冊子	1	96	皇国同一奉賀学校新築祝詞	年未詳	一紙	1
43	第5課御布告達類綴込	明治11年1月～10月	冊子	1	97	奉祈養蚕実入祝詞	年未詳	冊子	1
44	第2課(勸業)御布告達綴込	明治11年1月ヨリ	冊子	1	98	奉賀学校新設築祝詞	年未詳	冊子	1
45	第3課(租税)御布告達綴込	明治11年1月ヨリ	冊子	1	99	奉賀新室祝詞	年未詳	冊子	1
46	社寺地旧貢額	明治11年4月	冊子	1	100	奉賀新年祝詞	年未詳	冊子	1
47	社寺地旧反別税額調書	明治11年4月11日	冊子	1	101	奉賀新井堀突祝詞	年未詳	一紙	1
48	地租総額取調書	明治11年4月11日	冊子	1	102	奉賀学校新築祝詞	年未詳	一紙	1
49	社寺地租総額	年未詳	冊子	1	103	納税領収証書	明治35年～大正5	冊子	1
50	明治10年8月26日暴風ニテ倒家ニ付拝借願	年未詳	冊子	1	104	某日誌	明治28年1月25日～9月25日	冊子	1
51	明治7年新開試作地反別取調書	年未詳	冊子	1	105	消耗品費	年未詳	冊子	1
52	明治5年ヨリ同九年迄五ヶ年工費取調帳	年未詳	冊子	1	106	人夫賃之部・役員日当之部・溝ニ関係之部	年未詳	冊子	1
53	民費不納之者人名附	明治12年4月14日	冊子	1	107	諸断簡	年未詳	一紙	15
54	御用向諸書留	明治14年6月	冊子	1					

平成14年度大分市歴史資料館研修報告

研修生 大分市立王子中学校
教 諭 光来出 修

1. 研究主題

生徒の興味を引き出し、歴史の楽しさに気づかせるための、地域資料と歴史資料館の活用についてを研究主題とした。

2. 研究内容

No.	研 究 項 目
	研 究 内 容
1	地域資料を学習に生かすための研究
	○ 大分市史、県史の文献による研究 ○ 市内の文化財や史跡の視聴覚機器による撮影、整理 ○ 「授業に使える大分市内の文化財」(仮題)の作成 ○ 遺物の貸し出し方法、リストの作成 (大分市歴史資料館・大分県文化財資料室) ○ 歴史資料館所有ビデオリスト作成、利用の手引き作成 ○ 資料館展示品・収蔵品、大分市文化財収蔵品について見学や学習
2	歴史資料館の活動に参加しての研究
	○ 小中学生の体験学習の受け入れ、案内 ○ 「親子歴史体験講座」「夏休みジュニア歴史講座」「資料館しごと体験」など ○ 「ふるさとの歴史再発見講座」聴講記録 ○ 特別展、テーマ展に関する学習 ○ 学芸員の調査、発掘などに同行しての研修 ○ 中学生版の資料館利用案内(仮題)の作成
3	歴史資料館外の研究・研修
	○ 大友館跡などの遺跡発掘に参加 ○ 古文書解読の講座に参加、学習 ○ 中学生の体験的学習、総合的学習の研究 ○ 市外、県外の資料館、博物館における研修 ○ インターネットを使った調べ学習や関連サイトについて
4	研修のまとめ
	○ 研修報告書・資料作成

3. 研究の成果と課題

① 地域資料を学習に生かすための研究について
主題設定の理由で触れたように、資料の宝庫である歴史資料館や地域のさまざまな文化財・資料を学校での学習に生かす方策はないか、という視点を持ち続けながら研究を続けることができた。その結果中学生が来館した際、そのようなねらいを達成し、資料館での活動の手引き

となるテキスト「わくわく歴史体験のすすめ」を作り上げることができた。地域の歴史や文化財の紹介と見学のすすめ、古文書解読をはじめとする体験学習の案内、蔵書やビデオなどを総合学習に利用するための手引きといった構成で、これを有効利用することで地域資料や歴史資料館と学校での学習を結び付けられる、と考えている。また、このテキストのための資料収集で実に多くの文化財を訪れ、調査や写真撮影をしたり、その整理のため文献を調べたりすることができ、自分自身地域の歴史について貴重な学習をし、今後の学校での授業にも必ず役立つものと確信している。

② 歴史資料館の活動に参加しての研究

現在歴史資料館は「総合的学習」や「すこやか体験学習」との関係もあって、体験学習としての役割が非常に大きくなってきている。自分は「勾玉づくり」や「昔の道具体験」を中心にさまざまな体験活動に関わったが、1つの授業がどんどん進化していく経験をすることができた。同じ「勾玉のつくり方」を説明するのに反応を見たり感想を聞いたりしながら、説明の仕方を変えたり、説明用の道具を開発したりしながらよりよいものをめざしていくのである。学校ではこれほど同じ授業を続けることはできないが指導や支援についていろいろと得るものがあった。小学生や幼稚園生、「障害」児学校の子どもたちとふれあうことができたのもうれしかった。かねてより研修したい気持ちの強かった「古文書講座」をはじめ「歴史」「考古」「民俗」について受講した「ふるさとの歴史再発見講座」では地域の歴史について深く学ぶことができたし、高齢の受講生の方々と一緒に調べたり、情報交換をしたりとつながりを深めることができた。特別展やテーマ展などの展示活動や調査・研究活動では計画性、緻密性が要求される学芸員の仕事をともにし、調査に同行するなど学校とはちがった体験ができ、有意義な研修となった。しかし日常寄せられる質問についてみんなで考え、すぐ調べたり、学芸員さんと会

話する、それだけのことがまたすばらしい研修といえる1年間であったと思う。

③ 歴史資料館外の研究・研修

古文書とならび強い関心を持ち続けていた発掘に参加することができたのが大きな喜びであった。夏の盛りの大友館発掘でつつさもあったが菊花双鳥文鏡など、ちょうどすばらしい遺物が連続して出てきて感動も大きかったし、かねてから抱いていた疑問もいくつか解決した。その後も資料館の活動や現地説明会などを通して文化財課の方々と交流できたのもありがたかった。また高崎山や鶴賀城跡に登っては遺物の調査を試みたり、古文書講座などの先哲史料館の活動に参加したり、福岡県装飾古墳めぐりや宮崎県西都原古墳群など県外にまで足を伸ばし満足のいく研修を重ねた。西都原の体験館ではその後の体験活動に生かせるご教授とご示唆をたくさんいただいた。空間的・時間的に広がる世界や歴史を教える社会科教師はまずその基盤となる身近な地域をしっかりと押さえる必要があると思う。これまですぐ近くにありながらいつも通り過ぎていた史跡に触れ、多くの歴史関係の本を読み、正しい知識を多く身につけていけたこの1年間は自分にとってかけがえのないものであった。

④ 今後の課題

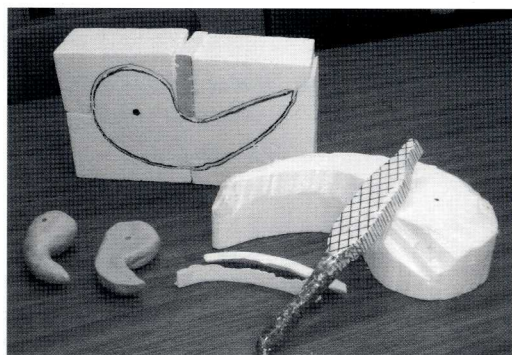
研究主題が「生徒の興味を引き出し、歴史の楽しさに気づかせるための、地域資料と歴史資料館の活用について」であり、この主題を実現していくのはまさにこれからのことである。主題実現のため多くの資料を集め、整理することはできたと思う。それをどう生かし、学習に取り入れていくかである。体験することの楽しさや自分の目で見、ふれることをすすめる授業をしていきたいし、自ら調べ、追求する生徒を育てたい。できれば発掘や資料館での体験学習も取り入れたい。多忙な中で制約も多いが、今回作成した資料を有効に活用し、主題の実現に努めたいと思う。

自作資料・勾玉づくり説明用具など

1年間さまざまな体験学習や展示に関わり、内容をよりよくするため、またよりわかりやすく伝えるためにいろいろな資料や説明用の道具などを研究、開発してきた。勾玉のボードについては新たな色を開発するために2ヶ月間ほどかけ、皆さんにもいくつかの勾玉、管玉を作っていただいで実験を繰り返した。色の配合を1:1から1:2、1:3、はては1:20など差をつけ、さらにつけ置き時間も10分、20分、2時間、24時間と変え、ピーカーやフラスコなどを使って、やっとのことで新色(黒・黄緑・オレンジ・紫)が完成した。しかも多くの方に喜んでいただきうれしい経験になった。



勾玉着色説明用ボード



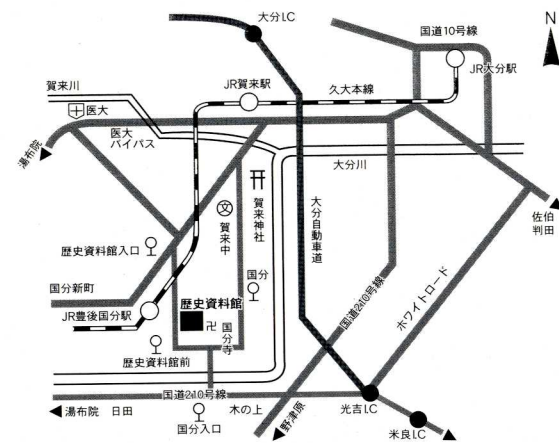
削り方・角落とし・仕上げ説明用模型



「あの頃の日本」・「あの頃の流行歌」の自作ボード類とコーナー

利 用 案 内

- 開館時間 午前 9 時～午後 5 時
(入館は午後 4 時30分まで)
- 休 館 日 月曜日(祝日の場合は開館)
祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)
年末年始(12月28日～1月4日)
- 観 覧 料 大 人 200円(団体150円)
高校生 100円(団体 50円)
小・中学生は無料
* 団体は20名以上
* 特別展開催中は別料金となる
場合があります。
- 交通機関 J R 久大本線
○豊後国分駅下車 徒歩 2 分
大分バス
○歴史資料館前下車 徒歩 1 分
国分新町・向原・今畑・中村・竜
原ゆき(全て賀来経由)



大分市歴史資料館年報

2003

発行日 平成 15 年 6 月 30 日
編集・発行 大分市歴史資料館
〒870-0864 大分市大字国分960番地の1
TEL(097)549-0880 FAX(097)549-5766